

日々の授業をサポートする 充実のラインナップ



■教師用指導書

1

Teacher's Book (朱書編)

解答例、指示文の英訳、
補充QA & TF問題、
リスニングスクリプト
など

2

解説編

教科書の内容解説、
本文全訳、文法・語法解説、
題材情報 など

3

指導編

指導案、オーラルイントロ
や生徒との対話例、
評価資料、年間指導計画
など

4

小中接続編

小中接続期にあたる1年1
学期(Unit 0~5)の指導案

5

ワークシート編 ① 基礎・基本

活動や問題の解答記入用、
「小学校の単語」の定着用、
読解補助などのワークシート

6

ワークシート編 ② アクティビティ

各単元の活動をさらに豊かに
するアクティビティ用ワーク
シート

7

ワークシート編 ③ リーディング

読みの力を高める補充リー
ディング教材を収録。
各学年に合わせた語数で、
「3段階読み」に対応。

8

CD (音声) / DVD-ROM (データ)

CD/リスニング問題音声
DVD/本文テキスト、
リスニングスクリプト、
ワークシート、イラスト、
ストーリーライドの
データ、単語・連語
一覧 など

9

指導者用デジタルブック

- PC やタブレットから操作可能。
- リスニングCD、ピクチャーカード、
フラッシュカード、文法学習DVDを搭載。
- 本文音声はスピードの調整が可能。
- 日本語訳は1文ずつチャンクごとかで表示可能。

教師用指導書に同梱します。



本社 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1
支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722
大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 教育資料データベース 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/>

令和2年6月発行 Copyright © 2020 by Tokyo Shoseki Co., Ltd., Tokyo All rights reserved. Printed in Japan

NEW HORIZON English Course

指導に生かす 新しい評価

新しい学習指導要領のもと、
小学校外国語の教科化を受け、
中学校での英語の授業はこれまでにない
大きな変化が求められています。
これらを見据えた新しい学力観のもとに
教科書も大きく改訂され、
生徒が英語を好きになり、英語による
コミュニケーションを行うことができる力を
伸ばしていくことになります。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた
授業改善を行うためには、
こうした指導方法の変化とともに、
新しい評価のねらいと方法を理解し、
評価の方法にも変化が求められています。
指導と評価の一体化を考えていくことで、
生徒の学びを支えていきたいものです。

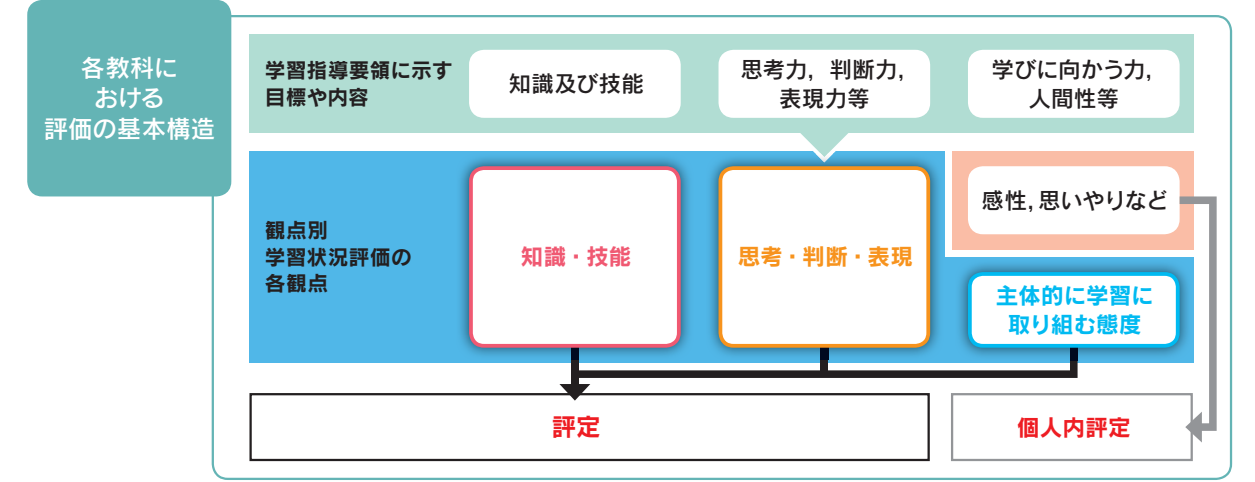
文教大学 教授
あ の こういち
阿野 幸一

Profile

文教大学国際学部国際理解学科教授、同大学院国際学際研究科教授。
埼玉県立高等学校、同中学校、茨城大学を経て現職。NHK ラジオ講座
『基礎英語』シリーズなど、出演多数。2020年発行の小学校英語教科書
『NEW HORIZON Elementary』（東京書籍）の編集代表も務める。

3観点による評価の考え方

新しい学習指導要領の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という育成すべき資質・能力の要素として3つの柱で再整理されました。これを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。この3観点を、中学校の英語の授業における指導と評価においてどのように捉えていけばいいのか、それぞれの観点について考えていくことにします。



1 観点 知識・技能

サッカーを例に考えてみましょう。みなさんが、サッカー選手の「知識・技能」を評価するとします。「ボールのけり方を知っている」は知識に当たります。もちろんこれは必要な知識であり、どのようにボールをけるのが適切かという知識は、筆記テストで測ることが可能です。しかし、この知識の有無によって、いいサッカー選手かどうかを評価することはないと思います。けり方の知識を活用して、ボールをねらったところへけることができるようになって、知識を生かした技能を身に付けていると考えることができるでしょう。体育の授業でこうした技能を見取る場合には、ゴールに向かって実際にボールをけるという実技テストを行うことになります。そして、ゴール内にボールを正確にけることができるかどうかを判断して、知識と技能を一体化して評価することになるでしょう。

これを英語に当てはめて考えてみましょう。未来を表す表現であるbe going toを授業で学習したとします。その後の筆記テストで“I () () () visit

Singapore next week.”の()にそれぞれ(am) (going) (to)を入れることができれば、この学習項目の知識を理解していることになるでしょう。しかしこのテストでは、be going toが生きて働く知識になっているかはわかりません。自分が来週の予定について考え、シンガポールに行くということを聞き手に伝えるために“I am going to visit Singapore next week.”と言えることで、be going toについての知識が技能として働いていることになります。この段階で「知識・技能」の観点で評価を行うことになります。

このように知識と技能を統合させて評価を行うことで、指導も変わってきます。先ほどのサッカーの例では実際にシュートをできるように指導することが求められます。同様に英語の授業でも、自分の予定を伝えることができるようになることを目指してbe going toの使い方を言語活動を通して指導し、予定を伝えることができるかを「知識・技能」として評価をしていくことになります。

評価を指導に生かすために

ここまで新しいNEW HORIZONを使った指導における評価について2年生のUnit 1を例として考えてきました。それぞれの単元での具体的な4技能5領域の評価規準については、教師用指導書に例示していますので、そちらを参照いただければと思います。

評価を行う際に考えなければならないことは、「生徒の学習改善につながるものにしていくこと」そして「教師の指導改善につながるものにしていくこと」です。つまり、教科書を使った指導の流れの中で適切な場面で評価をしていくことで、生徒が最初の評価場面でできなかったことが、次の評価の際にはできるようになっていることが大切です。また、筆記テストとパフォーマンステストを両輪として活用することで、4技能5領域にわたる生徒の英語力を評価し、その後の指導の重点の置き方を考えるきっかけにもなります。

指導によって「生徒ができるようになっているか」「できることを目的・場面・状況に合わせて使えるようになっているか」を評価し、評価の結果から「生徒ができるようになるために指導すべきこと」「使えるようになるために指導すべきこと」を確認して実施していくこと。こうしたサイクルを作り上げていくことで、生徒の英語学習の支援をしていければと思います。

2年 巻末 CAN-DO リスト

学習をふり返ろう — CAN-DO リスト —

Unit 1 Unit 2 Unit 3 Unit 4 Unit 5 Unit 6 Unit 7 Unit 8 Unit 9 Unit 10 Unit 11 Unit 12

	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
1年 学年末	<p>1年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>1年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>1年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>1年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>1年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>
▼中学 2年 の目標	4年1学期の目標まで進め、4年1学期の目標をしよう。				
Stage 1	<p>クラスメイトの生活や学校生活について聞くことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について読むことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について話すことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について話すことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について書くことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>
Stage 2	<p>クラスメイトの生活や学校生活について聞くことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について読むことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について話すことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について話すことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について書くことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>
Stage 3	<p>クラスメイトの生活や学校生活について聞くことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について読むことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について話すことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について話すことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>	<p>クラスメイトの生活や学校生活について書くことができるようになることである。</p> <p>Unit 1, L2, U1, SAT</p>
2年 学年末	<p>2年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>2年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>2年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>2年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>2年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>
3年 学年末	<p>3年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>3年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>3年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>3年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>	<p>3年1学期までに、自分の生活について、必要情報を書けるようになることである。</p>

3 「深い学び」に向けた指導と評価

また、それぞれのUnitには、単元を貫く問いとして最初のページとRead and Think②の最後に**Point of View**を示し、教科書の学習を通した生徒自身の考えの深まりを表現活動の中で確認できるようになっています。

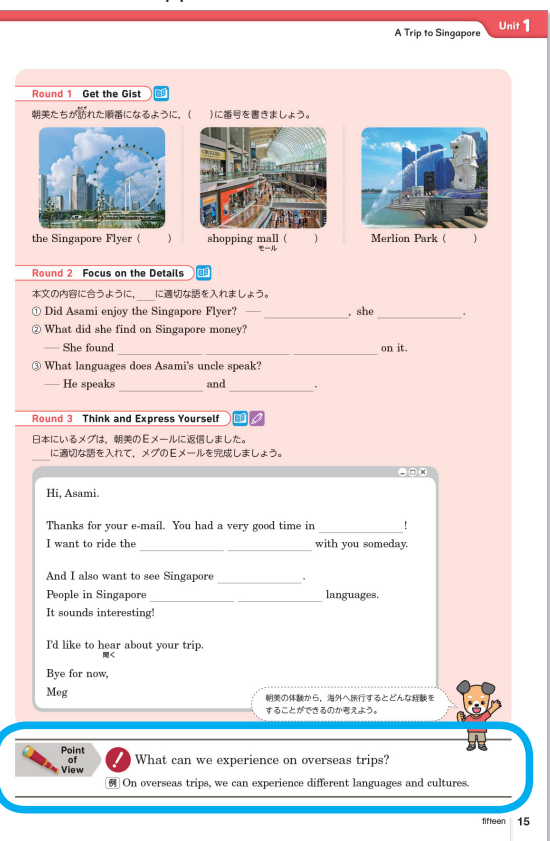
この問いに関する生徒の考えを、話すことや書くことの発表活動として単元の終わりに行うことで、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価として使うことも考えられるでしょう。

また、こうした評価は、一つの単元の中だけで完結するものではなく、複数単元を通した学習を通して行うこともあります。特に複数の単元で学ぶ学習事項を、目的、場面や状況に応じて生徒自身が選択して使用していく力を評価することも必要でしょう。これがそれぞれの学年で学期末ごとに用意されている**Stage Activity**になります。4技能5領域の統合的な活動の中で、学期全体を通しての、話すことや書くことの「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行うことができます。

2年 p.7 Unit 1 扉



2年 pp.14-15 Unit 1 Read and Think②



2 観点

思考・判断・表現

上記のサッカーの例で、ゴールに正確にボールをけることができるになれば、サッカーの技能が高い生徒と評価できるでしょう。ただし、この生徒が試合で活躍できる選手とは限りません。なぜでしょうか？確かにボールをける技能は高いことはわかりますが、実際の試合では、チームメイトとの関係や対戦相手の選手との駆け引きの中で、さまざまな場面や状況に対応しながら、目的を持ってボールをけなければなりません。つまり、自分の置かれた状況の中での動き方を考え(思考し)、どこにボールをけるかを適切に判断し、実際にボールをけるという行動(表現)を行います。こうした一連の流れの中で、身に付けている知識や技能を活用して、目の前にある課題を解決していきます。未来を表す表現be going toの場合はどうでしょうか？授業中の指導でも評価の場面でも、これからの予定を表す状況設定を行い、自分の予定を伝えたり、相手の予定をたずねたりという言語活動を行っていき

ます。そうした中で、正確にbe going toを使った文を理解したり、自ら表現できたりすることができれば、知識を持ち、活用できる技能を持ち合わせていると判断できます。しかし、さまざまな未知の状況に直面する実際のコミュニケーションにおいては、目的や場面、状況に応じてさまざまな既習事項を使い分けていく力が求められ、そうした中で伝えるべきことや表現方法を考え(思考し)、ある内容を伝えるためにはどの表現を使うことが適切かを判断し、実際に表現することになります。

新しいNEW HORIZONの2年生のUnit 1で考えてみましょう。教科書本文を学習する前の**Preview**で、以下のような会話を映像と音声で確認することで、このUnitで学習するbe going toやwillが使われる目的・場面・状況を提示し、生徒がこのUnitの学習を通してできるようになることをイメージできるように具体化して示しています。

Preview (2年 p.8 Unit 1)



Ms. Cook: Asami, do you have any plans for the Golden Week holidays?
Asami: I'm going to visit my aunt. She and her husband live in Singapore. I'm so excited.
Ms. Cook: Nice! There are many sightseeing spots in Singapore. Actually, I went there last year.
Asami: Oh, really?
Ms. Cook: Yes. I bought some guidebooks on Singapore then. I'll give you one of them.
Asami: Wow. Thanks, Ms. Cook.

ここでは、これから迎えるゴールデンウィークについて話をする場面、そして自分の予定を伝えるという目的の中でのやり取りが提示されています。このUnitで学習するbe going toやwill (2重下線)を、既習の現在形や過去形(下線)とともに用いることで、

生徒が場面や目的に応じて適切に表現することができるようになるモデルとして、「知識・技能」だけではなく、「思考・判断・表現」までの評価を見通した導入として、「何ができるようになるか」「できることをどのように使うか」を示しています。

3 主体的に学習に取り組む態度

ここまで「知識・技能」と「思考・判断・表現」の2つの観点について考えてきました。この2つの観点だけで、学習指導要領に示された外国語科の目標である「コミュニケーションを図る資質・能力」をすべて評価することができるでしょうか？

サッカーの試合で監督が出場選手を選ぶ際に、サッカーについての知識と技能を持ち合わせ、目的・場面や状況に応じたプレーができる選手であることは大切な要素です。しかし、試合に勝つためには、最後まであきらめずに粘り強く取り組もうとする姿勢や、自分たちのチームの状況を把握してプレーの仕方について

試行錯誤するなど、自らのプレーを調整しようとする態度も必要でしょう。英語においても、知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取り組みを行おうとする姿勢や、さまざまなコミュニケーションの場面に適応できるように自らの学習を調整しようとする態度などを見取り、主体的に実際のコミュニケーションに取り組もうとする態度も評価していくことになります。これが、「主体的に学習に取り組む態度」の観点からの評価になります。

教科書を使った指導における評価

指導計画に沿って授業を行う中で、評価を行う場面は多くあります。生徒の学習状況を適宜把握して、その後の指導改善に生かしていくことが必要です。そのために、単元の中のある一定の内容や時間のまとまりごとに、記録に残す評価の場面を精選することも大切です。ではどのような場面それぞれの観点の評価を行うことが可能かを、上記の説明で用いた未来の表現である **be going to** や **will** を学習する新しい **NEW HORIZON** の2年生、Unit 1 A Trip to Singapore を例に考えてみましょう。

1 「できるようになるため」の指導と評価

まずはPreviewで **be going to** や **will** の使い方を適切な場面で確認し、このUnitで「生徒ができるようになること」に意識を向けます。これを受けて、**Scene ①**と**②**で、教科書本文のPreviewに関連した話題の別の場面を通して未来を表す表現の使い方に触れ、実際の使用場面と使い方を踏まえて、**Key Sentence**で明示的な知識として学習することができます。

ここで得た文法の知識について、練習を通して生きて働く技能へと橋渡しをするのが**Practice**です。この練習でも、本文で示された題材を生かした場面設定が行われており、生徒自身が登場人物になって「使っ

Scene ① (2年 p.9 Unit 1)

Unit 1 A Trip to Singapore

Hi, Josh.
Guess what? I'm going to visit Singapore during the "Golden Week" holidays. It's my first trip abroad. I'm so excited.
I'm going to stay with my aunt and her husband. They are going to show me around.
How about you?
Do you have any plans for the holidays?
Asami

New Words

- golden [ˈɡoʊldən]
- holidays [ˈhɒlədeɪz]
- abroad [əˈbrɔːd]
- visit [ˈvɪzɪt]
- uncle [ˈʌŋkl]
- husband [ˈhʌzbənd]
- wife [waɪf]
- golden week [ˈɡoʊldən wiːk]
- airplane [ˈaɪrpleɪn]

Key Sentence 1

I am going to visit Singapore next week.
Are you going to visit Singapore next week?
— Yes, I am. [No, I am not.]

Practice

① I / have dinner / on the airplane
② we / visit a famous park / this Saturday

Mini Activity (2年 p.11 Unit 1)

Mini Activity

Listen

対話を聞いて、発音とメロディがゴールデンウィークに行く場所と、何をやるかを聞いてみましょう。

オーストラリア

水産物を食べる。

ビーチで泳ぐ。

家族でバーベキュー (barbecue) をする。

Speak & Write

① 週末の予定についてメモを書きましょう。

1. do my homework
2. go shopping
3. go to ...
4. stay at home
5. take part in my club activity

② ペアになり、①で書いたメモをもとに自分や相手の予定について対話をしましょう。

③ A: What are you going to do this weekend?
B: I'm going to go fishing with my father on Saturday.
A: That's nice. (Cool / Great / Really?)

④ ペアになり、1人は絵の中の人になってセリフを言います。もう1人は(裏)にならって、相手に助けを求めたりする文を言ってみましょう。

Where's the book?
I can't read Japanese.
This is difficult.

Can you help me?
I help you with your homework.
I look for the book.
I open the door.
I read it for you.

Read and Think ①, ②



Unit Activity (2年 p.16 Unit 1)

Unit Activity

夏休みの旅行計画

STEP 1 人気観光地を探そう

シンガポールで人気のある観光地やその場所の特徴を探しましょう。

① ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ Gardens by the Bay
② ナイト・サファリ Night Safari
③ オーチャード・ロード Orchard Road
④ セントーサ島 Sentosa Island

STEP 2 旅行の予定表を作ろう

調べた情報をもとに、行きたい場所や行動予定を決めて、旅行の予定表を作りましょう。

日付	行動予定
Day 1	July 30
Day 2	• arrive at Changi International Airport at 6:20 p.m.
Day 3	•
Day 4	•
Day 5	•
Day 6	• leave for Japan at 10:30 a.m.

STEP 3 作った予定表を紹介しよう

ペアになり、②にならって自分の予定表を紹介しましょう。

④ A: I'm going to visit Singapore from July 30 to August 3.
B: What are you going to do during the trip?
A: On July 31, I'm going to visit Orchard Road.
B: I want to do some shopping and have lunch at a nice restaurant.
A: Great! How about on August 1?
B: I'm going to ... (②の予定を伝える。)

CHECK

旅行の楽しさと海外の文化や景観について考える。

旅行や週末の予定について、まとめることができる。

てみる」ことで、文法の意味や形を確認します。この練習は、全員の生徒に一つの正解を求めて正確に表現できるようにするためのものですが、そのあとの書く活動として、生徒自身の今週末の予定について表現する練習があります。ここで、生徒自らが自己表現に向けて、獲得しつつある「知識・技能」を活用しようとしている状況を観察することで、「主体的に学習に取り組む態度」として評価を行うことも可能です。

そして**Scene ①**と**②**のあとには**Mini Activity**があります。

2 「できることをどう使うか」の指導と評価

Mini Activityのあとには、Read and Think ①と②の学習へと進みます。ここでも新出文法を取り上げてもいますが、学習の中心は題材を通して生徒の思考を深め、考えや思いを引き出すことにあります。こうして、単元で学んできた題材や言語材料をもとに、生徒自身が自己表現を行う4技能5領域を統合させた言語活動を行うのが**Unit Activity**です。

Unit Activity自体は一貫したテーマで行う統合的な活動ですが、3段階に分かれているSTEP1・2・3では、特定の技能や領域の評価ができるようになっていきます。このUnit 1では「夏休みの旅行計画」を生徒

この活動では、ここまで**Scene ①**と**②**で学んだ文法の理解をもとに言語活動を行うことで「知識・技能」を評価することになります。教科書本文の題材とは別の場面を提示しつつ、その文法を用いて同様の目的を達成するための聞く、話す、書く活動を行います。後日行われる中間考査や期末考査でのリスニングテストを含む筆記テストにおいても「知識・技能」の評価は行われますが、特に話すことの2領域である「やり取り」と「発表」についてのパフォーマンス評価を、この段階で見取ることができる指導場面です。

自身が考え、伝え合う活動を行います。調べ学習をもとに計画を立てながら **be going to** や **will** を使い分けたり、自分の思いを伝えるために既習の不定詞を使って表現したりしながら活動に取り組みます。ここで行われる発表活動の中で、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行うことが考えられます。そして、同じページの下には**CHECK**として「題材」「活動」の2つの側面からの「できるようになったこと」(CAN-DO)の振り返りが用意されており、生徒自身が単元全体での学びを自己評価できるようになっています。